

## 令和4年度における広島市認知症地域支援推進員の特色ある取組について

区	分類	特色ある取組
中区	居場所支援	【共生型居場所支援について】 地域住民から、地域で暮らす認知症の方や障害のある方、子育てで悩んでいる方など、地域のサロンには繋がりにくい方の居場所づくりをしたいとの声があり、共生型居場所「麦の畑」の支援に関わり始めた。認知症の当事者の様子について、ボランティアの方にも理解しやすいように説明し、支援方法を一緒に検討している。活動を継続することで、当事者が安心して過ごせる場となるよう支援している。
東区	研修会	【認知症けあカフェでの取組について】 『認知症けあカフェ』を毎年継続して開催している。令和4年度は東区のすべての地域包括支援センターと共催し、「医療・介護・地域」の連携を目的として『みんなでつないでいます！認知症の支援』をテーマに掲げた。認知症サポーター養成講座を開催した企業等の参加を募り、事例発表の場を設けたことが今回開催する上で工夫をした点である。毎年、テーマを関係機関と話し合い開催をすることで地域へ課題の共有を図っている。
南区	居場所支援	【男性介護者の会の立ち上げ支援について】 若年性認知症の人とその家族等に対する居場所づくりとして、男性介護者の相談が増えていたことから、男性介護者の会を作っていきたいと考えケアマネジャーや地区社協などへの協力を呼びかけチラシを作成した。地域包括支援センターや地域、居宅介護支援事業所に広報し、関係機関と連携して取り組んだ結果、参加者が徐々に増えてきている。
西区	認知症地域支援体制づくり	【認知症支援体制づくりについて】 認知症地域支援体制づくりを共に考える会議を年3回実施した。生活支援コーディネーターと在宅生活継続支援員とともに、各圏域の課題を共有した。区全体で取り組む認知症アドバイザー交流会や認知症カフェ店長連絡会などの開催協力もあり連携がスムーズに取れている。地域の中で声掛けをすることが大事との意識が根付き、地域支援力を強めていく一つの方法として協議を重ねている。
安佐南区	認知症対応力向上	【地域における段階的な認知症対応力向上の取組について】 地域ごとに認知症に関する意識や対応に違いがあり、「認知症とどう向き合うのか」について重点を置く必要があると考えたため、例えば、研修会の依頼があった際には、地域での認知症に関する困り事などや現在困っていることがないか、参加者に確認し、研修内容を検討した。また、徘徊する方がおられる地域では、徘徊するコース上の地域住民のサークル等に対して、安否の確認方法や徘徊時の声掛け方法等の対応を具体的に説明をしている。
安佐北区	認知症カフェ	【認知症カフェ連絡会からの課題の取組について】 認知症カフェ連絡会における意見で「サロン化している」ことが課題としてあげられたため、全カフェ、地域包括支援センター職員、地域支えあい課と認知症地域支援推進員とで認知症カフェ設置の根本的な目的について改めて学ぶ機会を設けた。現在の運営における課題や方向性を考えるなど活動を見つめ直すきっかけづくりとなるよう注力して運営支援を行った。
安芸区	認知症カフェ	【3年越しでの認知症カフェ立ち上げ支援について】 令和元年度からコロナ禍で延期になっていたステップアップ講座を開催し、3年越しの取組でステップアップ講座の修了者の中から認知症カフェを立ち上げる方が現れたため、活動を支援した。 認知症サポーター養成講座の寸劇団として「劇団オレンジ」が立ち上がり、小学校2か所と地域でのステップアップ講座で活躍してもらうなど形を変え、認知症を我が事として考えてもらえるように地域包括支援センターや地域団体と取り組んでいる。
佐伯区	研修会	【サポート医会研修会での取組について】 佐伯区サポート医会研修会にて、若年性認知症の人が増えてきており、地域で見守っていく土台の構築が必要であるという意見があったことからサポート医、コメディカル、ケアマネジャー、包括支援センター職員などを対象として『若年性認知症の理解と対応』などの研修会の開催に特に力を入れた。